WGIP と歴史戦―日本人の道徳を取り戻す（国士舘大学公開講演会、令和 3 年 11 月 2 日）

麗澤大学大学院客員教授
モラロジー道徳教育財団道徳科学研究所教授
髙橋史朗

1　日本人の精神的劣化

⑴　三島由紀夫『文化防衛論』…「豊かな音色が溢れないのは、断弦の時があったから」

⑵　曽野綾子「日本人の美徳の崩れが恐ろしい」（産経新聞 8 月 15 日付「正論」）
「建築の強度偽装、自動車の燃費に関する虚偽の申告、歴史ある大手企業の粉飾決算など、日本人の誇りだった誠実と職人気質を失った姿を見ると、私はわが国の将来に暗澹たるものを見る。彼らは仕事の発注者や株主や消費者を騙しただけではない。日本という国を詐欺の容疑で売った新しい『売国奴』に等しいのである。」

⑶　ノンチック・元マレーシア上院議員の詩「日本人よ　ありがとう」

2　ルース・ベネディクト『菊と刀』―米軍の対日心理戦略論文（『日本人の行動パターン』に加筆）…山折哲雄の解説「アメリカの戦時情報局のために行った政策研究」「戦闘的な政治学の論文」「重心を低くして、ひそかに獲物に狙いを定めていた」「武士道道徳と天皇信仰にぴたりと照準を合わせていた」「文化人類学的粉飾の背後に隠された本来の意図」を見抜く必要がある➡「国民性研究」は「敵の精神に打撃を与える無形の武器」

⑴　第 1 章「研究課題・日本」…「日本軍と日本本土に向けたプロパガンダにおいて、私たちはどのようなことを言えば、アメリカ人の生命を救い、最後の一人まで徹底抗戦するという日本人の決意をくじくことができるだろうか

⑵　第 3 章「日本人の倫理体系の根底にあるカースト（階層制度）が『有史時代を一貫する生活原理』」…「秩序と階層制度に対する彼らの信頼と、自由と平等に対する我々の信仰とは、まったく対極にある。正しい憤りをもって『階層制度』と戦う」
➡内なる基準に基づく欧米の「罪の文化」とは異質な外なる基準（他者の目）に基づく「恥の文化」が「日本人の国民性」、と単純な二分法論理で捉えた

⑶　最終章「対日占領の意義」…「日本人の古くて危険な侵略的（攻撃的）性質の型を打破し、新しい目標に向かわせることである」
➡日本人の「病的特性」の根底にある「トイレット・トレーニング」（用便の厳しい躾）
➡神聖な布団を便で汚すことは最大の罪と見なされ、厳罰と厳しい躾が日本人の国民性の形成要因、不安感・恐怖感の精神的トラウマとなり、「集団的強迫神経症」となって「侵略的・攻撃的性質の型が形成された＝ジェフリー・ゴーラーのトンデモ学説

3　ゴーラー『日本人の性格構造とプロパガンダ』と太平洋問題調査会

⑴　ヴァッサー大学所蔵のベネディクト文章では、第３章「プロパガンダと日本人」が墨塗利されて削除されている➡ラインバーガーが立案した対日心理戦争計画「日本計画」の基本文献として活用➡ジョン・ダワー「戦時米国における日本人論の唯一最大の影響力のある学問的分析で、戦時情報局の対日ホワイト・プロパガンダのバイブル」と絶賛（『容赦なき戦争』2001）

⑵　「日本人の性格構造分析会議」（太平洋問題調査会 NY 会議,1944,12,16-17）

●日本兵の日記を回覧しながら、映画『チョコレートと兵隊』(1938)を上映

●日本人の「病的特性」「伝統的攻撃性」の根因はトイレット・トレーニング

●「危険な侵略的（攻撃的）性質の型」（『菊と刀』）➡「南京大虐殺」「侵略戦争」

●日本人と米不良少年の性格構造の２８項目の類似点

●ジョン・エンブリー「トイレット・トレーニングへ飛躍したり、国際関係の現象へと飛躍するのは方法論的に無理があると考える者はわずかしかいない」

●デイビット・H・プライス「エンブリーは、日本の軍国主義のルーツは、関税規制と島国環境による天然資源不足にあるのであって、仮説とされるような内面的心理的欠陥によるものではないと考えたが、1950 年,FBI によって不虜の事故を装って暗殺された（『人類学的知性』デューク大学出版）

4　対日心理作戦を継承した WGIP に至る歴史的経緯

(1)　OWI（戦時情報局）の対日心理作戦ハンドブックの冒頭…「プロパガンダとは、相手の考えや行動を支配するための手段であり、相手の思考過程に影響を与えるのみでなく、アイディアをその思考の中に微妙に巻き込んでしまう無形の戦略である」

(2)　思想的・実践的源流…タヴィストック研究所と延安の「日本兵捕虜洗脳教育」➡ジョン・エマーソン証言(1957,3,12 米上院国内治安委員会)一英国立公文書館文書➡「軍国主義者」と「国民」という架空の対立図式を導入

(3)　ブラッドフォード・スミスの 2 論文「日本精神」「日本一美と獣」（コミンテルンの外郭団体「アメリカのシナ人友の会の機関誌『アメラジア（Amerasia）』1942」

(4)　ボナー・フェラーズが招集したマニラ対日心理作戦会議(1945,5,7~8)➡対日心理戦略を CIE に引き継ぐ

(5)　米情報調査局（COI)から OSS・OWI に受け継がれた対日心理戦略は、国務省の戦後計画委員会（PWC）と国務・陸軍・海軍三省調整委員会（SWNCC）という対日占領政策の最高決定機関を経て、GHQ の CIE に継承され、WGIP として結実した

(6)　ハル国務長官の誤解「日本の軍国主義は国民の伝統に基づいているという点において、ドイツやイタリアとは異なる」…ホルトム・ゴーラー・ベネディクトの影響

(7)　「伊独での失敗の分析」報告書「積極的で統合されたプログラムの事前の準備の欠如」の教訓から「再教育・再方向付け」の積極的で統合されたプログラムの必要性

が認識され、SWNCC の米国「初期の対日方針」に受け継がれ、「再教育、再方向付け」を狙う「精神的武装解除」構想の最重要政策として WGIP が策定された

(8) フェラーズの対日基本心理作戦計画書(1945,4,12)の３つの「結論」「心理作戦の方法論」「日本人の行動パターン」「天皇崇拝」「武士道」記述➡マッカーサー電報(1946,1,25)に決定的影響を与えた

5 「太平洋戦争史」と「南京大虐殺プロパガンダ」との接点

⑴ 「南京大虐殺プロパガンダ」の最大の根拠―マギーフィルムとティンパーリ編『戦争とは何か』

⑵ ティンパーリからホーンベック米国務次官宛書簡

⑶ ティンパーリからベイツ宛書簡(1938,2,4)

⑷ ジョージ・フィッチ著『中国での八十年』

⑸ フィッチ婦人の米下院外交委員会証言(1939,7)

⑹ ブラッドフォード・スミス「太平洋戦争史」への影響

6 戦後教育への影響

⑴ ミラン・クンデラ『笑いと忘却の書』（集英社文庫､2013）

⑵ 尾崎一雄『虫のいろいろ』（新潮文庫,1951）―「蚤の曲芸」

⑶ 「太平洋戦争史」･･･土台は米国務省「平和と戦争」･･･敵国が善玉悪玉史観で裁いた

⑷ 教師指導用マニュアル『新教育指針』（昭和 21 年 5 月）

⑸ 大阪書籍・日本書籍中学校歴史教科書の近代史の扉の写真

⑹ WGIP を継承・補完する日本学術会議

⑺ WGIP「陰謀史観」への反論

7 日本発の「歴史認識問題」…「反日」NGO と国連の癒着

⑴ 教科書誤報事件➡検定基準に「近隣諸国条項」➡日本青年会議所小学生調査

⑵ 首相の靖国神社参拝問題

⑶ 従軍慰安婦問題➡ユネスコ「世界の記憶」共同申請

⑷ 「こども庁」「子ども基本法」論議の問題点（拙稿「左翼政策『こども庁』実現めざすのか」『正論』令和 3 年 12 月号、参照）

8 「日本精神」の再評価

⑴ 神道（「鎮守の杜」文化）の再評価

① 国連事務総長から石清水八幡宮権宮司が「SDG s 文化推進委員長」就任を依頼された理由

② 寛仁親王殿下記念講演（全国氏子青年協議会創立 35 周年、赤坂プリンスホテル）

⑵　「武士道』の再評価一大森惠子『高校生が読んでいる『武士道』』（角川新書,2011）

⑶　「皇道」の再評価一拙稿「日本の『国柱』を考える」（産経新聞「解答乱麻」2019,2,6）

①　上皇后陛下の御歌一明治神宮御鎮座 80 年

②　小山泰生『新天皇と日本人』海竜社,2018

③　五か条の御誓文

④　「新日本建設に関する詔書」…「朕ハ義命ノ存スル所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ万世ノ為ニ太平ヲ開カント欲ス」➡「時運ノ赴ク所」（関西師友協会『安岡正篤と終戦の証書』PHP 研究所）

⑤　「王政復古の大号令」

⑥　「神武天皇橿原建都の詔」

⑦　聖徳太子「１７条憲法」

9　ユネスコ「世界の記憶」登録をめぐる攻防と「歴史戦」の課題

⑴　共同申請文書の 3 分類の問題点

⑵　同文書の具体的問題点

⑶　同文書の技術的問題点

⑷　「世界の記憶」制度改善から「対話」勧告へ

⑸　「国際倫理」「国際規範」の構築一「天地の公理」（横井小楠）…歴史的対立を打開する「交響的創造」

⑹　「対話とは，思考のプロセスを再考し、確信されてきたものを再吟味し、新たなものを発見しつつ前進する手段であり、対話とは対決であり、試練であり、変容であり、通底する価値に身を投じるための手段である」＝「和して同ぜず」の和の精神は「異なるものの調和を意味」し、「対話のための理想的な場としての『道』」の文化の意義が確認された（ユネスコ創立 60 周年記念国際シンポ「最終公式声明」2005）